

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100163		
法人名	社会福祉法人 徳誠福祉会		
事業所名	グループホームおきだて		
所在地	青森県青森市富田5丁目7番21号		
自己評価作成日	平成27年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、穏やかに過ごしていただけるように、入居者と職員の関わり合いを大切にしている。毎月、色々な行事を企画している他、地域住民や家族を行事に招待して交流を深めている。また、近隣に同法人のデイサービスセンターや保育園、特別養護老人ホームがあり、遊びに行ったり、行事にも参加している。その他、季節感のある装飾品を入居者と一緒で作成して飾り、ゆったりとした生活空間を作ることを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流が日常的に行われており、ホームとしても町内会に加入し、町内会の行事にも積極的に参加している。また、隣接する保育園との交流や、地域の小・中学校との交流も盛んに行われている他、ホームの納涼祭にも多数の地域住民が参加して、地域行事の一つとなっている。  
また、重度化や終末期におけるホームの方針を明確にし、医療面でも協力病院や主治医との連携が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的で安心、安全な生活」、「自立した生活」、「人間として尊厳のある生活」を理念とし、共有しながら、日常の業務の中でこれらを基に実践している。	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、ホーム独自の理念を掲げ、全職員で共有している。職員は、利用者が尊厳を持ち、安心安全に、自立した生活を送れるよう、理念を日々のサービス提供場面で反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を秋祭り等の行事に招待したり、町内のゴミ拾いや毎日の挨拶を欠かさない等、地域住民との交流を図っている。	町内会に加入し、町内の行事へ参加している他、ホームの行事にも地域住民に参加していただき、交流を行っている。また、医療機関や近所の商店等、社会資源の活用も行いながらホームの理解を図り、地域の一員として町内のゴミ拾い等にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会や研修に参加して知識を共有し、運営推進会議や行事を通して、認知症への理解を得るように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動内容を報告し、入居者の代表者や町会の方にも意見を出していただき、話し合っている。また、これらの意見を参考にして、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催し、ホームの取り組み状況等を報告している。会議では、地域包括支援センター職員が利用者の視点に立った意見を出してくれたり、参加メンバーと情報交換を行いながら、今後のホーム運営や業務向上につながる話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ運営推進会議で使用している資料を持参している他、待機者の情報も毎月報告し、情報交換を行っている。	運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員が参加している。また、市へは運営推進会議の資料や自己評価及び外部評価結果、目標達成計画等を提出し、ホームの実態を理解していただけるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者のケアについて普段から話し合い、ケアの統一、情報共有を行いながら、身体拘束につながらないように努めている。また、声がけや接し方についても職員同士で話し合い、より良いケアの実践に努めている。	管理者及び職員は身体拘束の内容や弊害を理解しており、身体拘束を行わない方針で日々のサービス提供を行っている。また、身体拘束廃止のマニュアルが整備されている他、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書等の書式が整備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、得た知識や情報等を勉強会で発表し、共有している。虐待のないよう話し合いながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修等に参加し、勉強会や報告書等を通して、職員同士で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、施設内の見学や事前訪問を行っている。訪問の際は、施設の方針やケアの他、不明な点等を詳しく、わかりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際に要望や意見等を伺い、サービスに反映している。納涼祭や行事の際にアンケートを配り、玄関に目安箱を設置する等、より話しやすく、意見しやすい環境づくりに努めている。	面会時には家族が何でも話しやすい雰囲気づくりを心がけ、玄関に意見箱を設置したり、外部の相談苦情窓口を掲示している他、運営推進会議には利用者や家族も参加し、外部へ意見等を出せる機会を設けている。また、苦情や要望等が出された場合は全職員で話し合い、より良いホーム運営のために反映させる体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝行っている申し送りやユニット会議で意見を出し合っている。現場の職員から意見や問題・改善点等を出し合い、話し合いを行うことで、サービスに反映させている。	毎朝の申し送りや月1回のユニット会議等、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、出された意見等は全体会議で話すことができ、反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学歴や資格、実績や経験に合った給与水準を維持し、研修や勉強会で得た情報を共有しながら、チームワークがとれるだけでなく、各々が目標を持って働ける環境を維持している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各々の学びたい内容を基に研修を受ける機会を確保し、学んだ知識を勉強会等を通して他の職員に伝達することで、互いを育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修に参加し、情報交換等の交流を行いながら、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から、入居者への声かけや会話により、思いや希望、ニーズ、不安を把握できるように、信頼関係を築くことを意識しながら対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と個別に話し合う場を設けている他、その後もいつでも話を聞き、相談できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に応じて、本人と家族の意見・要望を聞いた上で介護計画を作成し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の喜怒哀楽を共感し、家事等の得意分野で力を発揮していただき、共に支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行うことにより、家族にもできる支援をしていただきながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が今まで関わってきた人や馴染みの人を把握し、電話がかかってきた時や来所時はゆっくりと話せるように配慮している。	入居時のアセスメントや日常生活の会話等から、利用者の馴染みの人や場所について把握する取り組みが行われている。行きつけの美容院や自宅への外出希望があった場合には、家族に連絡して協力を働きかけている他、友人等との電話のやりとりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないよう職員が間に入り、レクリエーションや作業時の環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の際、病院に情報提供し、本人や家族の相談を受ける等の支援にも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションにより、本人の希望や意向を把握するように努めている。また、把握した内容を職員で共有している。	利用者に積極的に話しかけ、日常の表情や会話等も観察しながら、利用者の思いや意向等の把握に努めている。また、家族や関係者からも情報収集し、職員間で共有化しながら、利用者の視点に立って意向等を把握できるよう、話し合いが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、職員間で共有し、日々の支援に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態や希望を把握し、変化にも対応できるように職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施している他、月1回のユニット会議や毎日の申し送りにより状況を把握しており、改善するところは各々の意見やアイデアを反映し、検討している。	利用者がその人らしく暮らし続けるために、利用者や家族の希望・意向を確認し、全職員の意見や気づきを話し合いの上、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。また、見直しを行う際は、個別のケース記録の確認や、職員、利用者、家族、主治医等からも意見や気づきを収集し、再アセスメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子、行動、言動等を記入し、毎日の申し送りや月1回のユニット会議で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や意向をなるべく把握し、できる範囲で支援をするように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人のデイサービスや保育園等の行事への参加を通じて、地域の中で楽しみを持ちながら暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。また、精神科や歯科等の受診の際は本人や家族と話し合い、かかりつけ医の意見や指示を基に受診している。	入居前の受療状況を把握しており、希望に応じた受診を支援している他、協力病院が往診可能であることも説明して、選択していただいている。受診結果は電話や面会時等に家族に報告している他、月1回、状況の報告書も送付して共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時のバイタル測定や普段の身体状態の確認の他、本人の訴えや異常がみられた場合はすぐに看護師に報告し、適切な処置・受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連絡を密に取り合い、体調不良時の受診や入院が迅速に行えるように努めている。また、入院時はお互いに情報交換を合えるような関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や終末期の対応について、事業所としての指針を作成し、明確にしている。また、家族や医師と話し合い、事業所でできる事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の指針が作成されており、入居時から、利用者や家族、かかりつけ医との話し合いが行われている。また、協力病院やかかりつけ医が急変時の対応をしてくれており、適切なアドバイスや支援が行われ、利用者や家族が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAED使用の訓練を定期的に行っている。また、事故や急変時の対応マニュアルを作成し、職員が迅速に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練や連絡網の確認を行い、災害に備えている。また、訓練時には地域住民の協力を得て行っている。	年2回、避難訓練が実施されており、うち1回は夜間を想定したものとなっている。また、運営推進会議等でも働きかけながら、近隣住民や駐在所と災害時の協力体制を構築している他、災害発生時に備えて、缶詰等の非常食やコンロ、懐中電灯等をホーム内に用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合った言葉かけや対応をすることで、プライバシーの確保、人格の尊重に努めている。	利用者への対応や声かけ等で気になることは、その都度、職員がお互いに注意し合ったり、申し送りで話し合いを行っている。職員は、利用者の言動を否定や拒否することなく、利用者の要望があった時はすぐに対応できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話を通して、本人の希望を聞き、できる限り自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞き、できる限り希望に沿った1日を過ごしていただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や衣類を本人が選んだり、行えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から一人ひとりの好き嫌いを把握し、メニューを作成している。個々の力に合わせ、食材の下処理、食卓の準備、食器拭き等を職員と一緒にやっている。	利用者のできる範囲で、食事の準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。また、利用者と職員は会話を楽しみながら共に食事を摂り、家庭的な雰囲気の下、食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況や好みに合わせ、食事形態等を工夫している。水分は定時提供の他、運動や体操後、希望時に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じたケアにより、口腔内の清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握した上で声かけや誘導をし、各々に合わせた支援を行っている。	排泄表を活用してパターンを把握しており、オムツを利用している方でも日中はトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、誘導時や失禁時の声かけは他の利用者に気づかれないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、普段から水分補給の声かけを行い、体操や運動に取り組めるように働きかけている。便秘になった場合は主治医へ相談し、服薬での対応を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前の健康状態を把握し、入居者の希望に沿った時間や方法を取り入れるように努めている。また、同性介助の必要性を確認し、希望に応じて対応している。	基本的に週2回の入浴となっているが、希望があれば、毎日入浴できる体制を整えている。入浴前に体調不良の有無等を確認し、1対1で入浴介助を行っている他、希望に応じて同性介助の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の作業やレクリエーションで活動時間を増やし、夜間眠れるように支援している。日中眠気がみられた場合は、居室で臥床していただいたり、ソファのリクライニングを利用して休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬や用法、副作用まで全て理解できていないが、すぐ取り出して見られるように、薬情はいつでも確認できるようにしている。また、薬は飲み込むまで確認し、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から、得意な事やできる事を活かした作業を手伝っていただいたり、レクリエーションや作業を楽しんでいただけるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人から希望があれば家族に連絡をして、できる限り外出できるように支援している。また、行事で外出する機会や、天気の良い日はグループホーム周辺の散歩等の機会を設けている。	近隣への散歩や買い物等、日頃から外へ出る機会を設け、利用者の気分転換を図っている。また、地域の行事や季節を感じる場所、利用者の希望の場所へ外出行事で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設内で管理しているが、本人や家族に連絡・確認し、買い物へ同行したり、代行し、また、行事等で外出した際は本人の意思で使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、いつでも電話をかけられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾品を入居者と一緒に作成し、飾っている。また、室温や湿度管理に気を配り、快適に過ごせるように努めている。	職員の話し方は穏やかで、テレビや音楽等の音量も適度なものとなっている他、日射しや照明等で室内は適度な明るさがあり、利用者が心地よく過ごせる空間となっている。また、季節を感じさせる飾り付けも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に作業したり、入居者同士で会話やレクリエーションをできるような空間づくりに努めている。また、レクリエーションや作業に拒否があった場合は無理に勧めず、自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を取り入れた家具の配置にしたり、本人の使い慣れた物を使用し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には使い慣れた物や好みの物を持ってきていただいている。また、高齢化や認知症の進行に伴い、危険のないように家具の配置等が工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、安全且つ自立した生活が送れるように、見守りや介助にて対応している。また、職員同士も統一した介助をしている。		